

れた、悲しき人間です。

おや、どうされましたか。ここがどこかわからない、ですか。やだなあ。あなたの知ってるいつもの街だと思えますけど。

おかしいですか？ いいえ、おかしくありません。しいて言えば……いいえ、やめましょう。この世界はおかしくないまま、いつだってそこにあります。

何を言っているか分からない、と言いたげですね。うーん。本当ですか？ では、そうですね。何故ここに来たのか覚えています？ こんな公園の東屋に雨宿りに来たのは何故でしょう？

それも忘れてる、と。困りましたね。まあ、無理もないことかもしれません。では、最後の記憶は？

そうですね。ほの暗い家路を歩いていたことだけ、かすかに、と。では、ひとつ、物語を。それは主人公不在のエピローグ、その最後です。

経

ただ 香 ます

まだ にね

の

九日 は…

こんにちは。

あなたも、雨宿りですか？

お隣、どうぞ。

いやあ、困りましたね。まさか突然こんなに降りだすなんて。気象予報士はなにをやってたんでしょね。あの信頼してるんだけどなあ。たまに外すから困ります。運悪いことに折りたたみ丁度持つてなくて。仕方ないから雨宿りです。あなたは？

そうなんですか。じゃあ、似た者同士ですね。

一人だと寂しくて退屈ですから、しばらく話し相手になつてくれませんか？

葉桜照月

ふふつ。ありがとうございます。

……雨の音って、いいですよ。16ビットを刻むような、この一定のリズム。雨垂れをコップに集めて、楽器にするやつ、知ってますか？ あれ、楽しいですよ。

…え、知ってるけどやったことはない、ですって？ それは損でしたよ。私は今でもたまにやっています。果物の缶とかが良いんですよ。あなたにも、一度やってほしいんですけどね。

…この格好ですか？ 御覧の通り、巫女です。まあ、巫女って言っても、みんなの想像する巫女とはちよつと違いますけどね。神様のしたがないことを押し付けら

おっと。大丈夫ですか。失礼しました。眩暈ですか。眠気に近い物、ですか。そうですね。

雨、止みませんか。……え、まるで一生晴れの来ないかのよう、ですって？

……そうかも、ですね。

晴れ、か。いや、来ても嫌だけど。

晴れは嫌いかな？ うーん、複雑です。雨は陰鬱ですが、晴れは残酷です。わたしのこの仕事も、晴れの方がやりにくいんですよ。まあ、あなたには知るよしのない話です。

この世界では、雨も晴れも曇りも、嫌いです。私の仕事はそういうものです。どんな天気でも、辛いことには変わりない。でも、雨が一番救われます。それは感情だから。この世界の雨は、感情の奔流です。

ごめんなさい、こちらの話をしてしまいました。

眠気はどうですか。よくない、体が重い。わかりませんが、あいにこの雨で、あなたを何処か暖かいところに連れて行ってあげるとは、今はまだできません。私の役割として、使命として。あなたにはもう少しここで私と一緒に居て貰います。だからあなたにひとつ、聞きます。

簡単なことです。

その眠気に身をゆだねても、構いません。

身体の警告に抗い進んでも、構いません。どちらを選びますか。

そうですね。……あなたも。人間って、みんなこうです。それが人間の強さだと言うなら、こんなに残酷なこともないかもしれません。

では、あなたにひとつ、物語を。それは主人公不在のエピローグ、その前半です。

どして

嘘 言って

朝 っ に

を けて

で

しっかりとしてください。大丈夫ですか。眠気と倦怠感がひどく、立つてもいられない。落ち着いてください。座りましょう。

……いくらか、落ち着いてきたみたいですね。良かった。もう戻らないかと思いましたが。ずっとぶつと物を言うばかりで、返事も帰ってこなくて。でも目線だけはしっかりとっていて、だから『送る』のをやめたんです。

……何でしょう。

……ええ、聞きましょう。

……どうしたらいいか、ですか。

もう、気付いてるでしょ？

というか、最初から忘れてなんて、いないでしょ？

はい。その通りです。

その水たまりを見てください。

そこに写っているのは、きつと、あなたの知っているあなたではないとおもいます。血気のない青白い顔のあなたが、きつとそこには映っているんですよ。

すべてを、思い出してしまったのですね。

結末を。真実を。痛みを。苦しみを。絶望を。

あなたは、死んだのです。家への帰り道、『削除』に遭って。

いいんですよ。ここは、私しかいません。もしそれで何かが晴れるなら、休まるなら、叫んでも、狂ってもい

どうして

嘘たと言って

朝まで元気だったのに

眼を開けて

行かないで

南無妙法蓮華経

ただ今より、焼香に入ります

まだ若かったのにね

気の毒に

四十九日の予定は…

運命も。

過去も。

結末だって。

もう変えることはできません。

ここは結末を迎えたあなたの為の、泡沫の世界です。

泣かないでください。この世界の天気は、あなたに送られた心情そのものです。このどしゃぶりの雨は、いつまでも止むことのないこの雨は、あなたを悼む人々の心の雨なんですよ。

それはあなたにとつての、救い…には、ならないかもしれませんね。新たに生まれた後悔は、この救済では救われません。あなたの言葉を誰かに届けることも、上司に止められています。

でも、私は覚えていきますから。だから、あなたの言葉を聞かせてください。あなたの後悔を教えてください。心が晴れるまで、私はあなたの傘でいます。

すべて忘れたい。

眠気と倦怠感に身を委ねたい。

もう目を閉じたい。何も見ることなく。

いいんですよ。それでいいんです。もう苦しまなくていいんです。あなたは十分すぎるほど傷ついたのです。

泣かないでください。もう後戻りはできませんから。死因を思い出すことも、いいことの追憶すら、今のあなたには毒です。さいごのさいごくらい、何にも脅かされることなくいてください。

ごめんなさい。私に出来るのは、あなたに教えるだけ。戻すことも救うことも、私にはできません。だからせめて私の膝を枕にしてください。そのまま軋んで荒んだ心を安らかにしてください。

ほら、残酷な物語はこれでおしまいです。だから、もう頑張らないで良いんです。何も動かなくていい。何も感じなくていい。

おやすみなさい。そして、お疲れさま。

れ

は背中

そ。る

を預け

見を夢

のなうよくいでん沈に海深。うよ

くいで

たやわ

はたなあ

ん沈に

らかい

地面

っ

てい

なく

なく強に第次が光のそ。るいでん

包を

く。

その

強ろ

しむは光に

たな

光は

あ

いなもになはのもるれそおうも。くゆてしかとんだんだをたなあり

私の仕事はこれで終わり。

自覚のないもの前にいきなり現れて、いきなり現実を突きつけて、そして消えてもらう。

第二の死の宣告者。私の仕事だ。

何もしてないのに、気味悪がられる、避けられる。

それで私みたいなのが、祓いにくる。

お前はいなくなってくれと、告げにくる。

救うこともできないくせに。

苦しみを与えることしかできないくせに。

そうして。

私は仕事を終えたら、必ず泣くのだ。

それがこの世界の、最後の雨になる。